2018.2.11　年間第六主日

重い皮膚病を患っている人をいやす

マルコ福音書 1:40-45

（そのとき、）重い皮膚病を患っている人が、イエスのところに来てひざまずいて願い、「御心ならば、わたしを清くすることがおできになります」と言った。イエスが深く憐れんで、手を差し伸べてその人に触れ、「よろしい。清くなれ」と言われると、たちまち重い皮膚病は去り、その人は清くなった。イエスはすぐにその人を立ち去らせようとし、厳しく注意して、言われた。「だれにも、何も話さないように気をつけなさい。ただ、行って祭司に体を見せ、モーセが定めたものを清めのために献げて、人々に証明しなさい。」しかし、彼はそこを立ち去ると、大いにこの出来事を人々に告げ、言い広め始めた。それで、イエスはもはや公然と町に入ることができず、町の外の人のいない所におられた。それでも、人々は四方からイエスのところに集まって来た。

説教

イエスに出会うとヒトは変わる。出会った人は宿命とあきらめていたことを変えることができる。そして、出会いによって変わった自分を人々に伝えることで世界を良い方向に変えていくことになる。とても単純化した言い方ですがキリスト教信仰のひとつのモデルです。イエスに出会うために礼拝にいこう、そうすれば自分が運命とあきらめていたことも変わるかもしれない。そして自分が変えられた（救われた）ことを教会で、そして教会以外の多くの人にも伝えよう、という信仰のスタイルです。

さて、きょうの福音には重い皮膚病を患っている人（ハンセン氏病患者）がでてきます。イエスの癒しの評判を聞きつけて彼はイエスの元にやってきます。そこで彼は信仰を告白します。「イエスは深く憐れんで、手を差し伸べてその人に触れ、『よろしい。清くなれ』」奇跡がその瞬間におきました。癒し

の後、イエスは厳しく注意を与えます「誰にも話すな、ただ祭司に見せなさい、また律法の定めどおりに捧げなさい」とどうしてイエスが彼に注意を与えたのか、その真意は福音書にくわしいことが書いていないのでわかりません。しかし彼はイエスのいいつけにそむきました。

> **彼はそこを立ち去ると、大いにこの出来事を人々に告げ、言い広め始めた。それで、イエスはもはや公然と町に入ることができず、町の外の人のいない所におられた。それでも、人々は四方からイエスのところに集まって来た。**マルコ１：45

癒された男の行動、言い広めの結果、イエスは町にはいることが難しくなっりましたが、人々のほうからイエスのところに集まりました。イエス人気は衰えるどころか高まったようにも思えます。彼の「言い広め」は良かったのか、それとも・・・

＜もう一人の「静かな」重い皮膚病患者＞

今日の福音の癒しの場面に「静かな」重い皮膚病患者がもう一人いたと想像してみましょう。彼（彼女）はこの奇跡の癒しの一部始終を見ていました。そして実際の癒しが行われたにもかかわらず、自分からは名乗り出ることなく、黙ったまま、静かにしていた。彼（彼女）は癒されることなくそのままその場を立ち去った。

この静かな男（女）は引っ込み思案な性格なのでせっかくの「癒し」のチャンスを逃してしまった不運な男（女）でしょうか。信仰の薄い者なのでしょうか。きょうの福音のうら側から読んでいくと、このような信仰を持っているヒトもいるのだと書いてあるようにわたしには思えます。

さいごに時々紹介している「ニーバーの祈り」で説教を閉じることにします。

> 私たちに 変えられないものを 受け入れる 心の平穏を与えて下さい。変えることのできるものを変える 勇気を与えて下さい。そして、変えることのできるものと できないものを 見分ける 賢さを与えて下さい。わたしたちの主、イエス・キリストによって。アーメン